

2018年12月 第41号
月刊
いきいき道政報告

日本共産党 道議会議員

佐野 弘美

発行

日本共産党
佐野弘美事務所
北区北20西5 2-27

Tel 011-790-6411
Fax 011-790-6412



26日 佐野道議 質問する

生活保護法改悪

後発医薬品の「原則化」

10月からの生活保護法改悪で、生活保護利用者への後発医薬品が「原則化」されたことについて、佐野弘美議員は11月26日の保健福祉委員会で、道の対応をただしました。

これまでも指定医療機関は、後発医薬品を使用するよう「努めな

ければならない」とされ、生活保護利用者の後発医薬品普及率は国民平均を上回っています。

佐野道議は、財源を理由に生活保護利用者だけに後発医薬品を強制するのは差別だと指摘し、過去に後発医薬品で体調を崩したことがある場合の対応をただしました。

道は、「医師が、後発医薬品使用が適当でないと判断した場合は、先発医薬品が処方される」と答弁しました。

佐野道議は「患者が不安を訴ええても、医師が聞き入れなければ、後発医薬品が強制されかねない」とし、「原則化」で生活保護利用者や医療機関が困らないうよう対応を求めました。

四島返還 知事も封印

知事の政権追隨を追及

ロシアのプーチン大統領は、9月にウラジオストックで、前提条件なしで、国境画定を意味する「平和条約締結」を安倍首相に呼びかけました。11月のシンガポールにおける首脳会議後には、「引き渡し後も、2島の主権は交渉対象」と、戦後処理の是認を求める発言をしています。

宮川潤議員は、12月4日の道議会一般質問で、高橋はるみ知事に千島樺太交換条約に対する領土問題の歴史認識と、日口首脳会談の結果への認識をただし、「北海道の一部である歯舞・色丹の返還で平和条約を結ぶべきでない」と強く主張すべき、「2島すら返還されない可能性を重く受け止めるべき」と厳しく指摘しました。高橋知事は歴史認識には言及せず、「北方4島の帰属問題を解決し、平和条約を締結する政府の立場に変更はない」と無批判に安倍外交を擁護しました。

宮川道議は、「ロシアに屈服する事なく、毅然と交渉するよう政府に求めるべきだ」と重ねてただしました。

家電3品を支援

被災3町に貸与実現

第4回定例道議会会で一般会計補正予算のうち、災害対策関連分265億円が全会派一致で可決され、被災3町の住民が強く要望していた、洗濯機・冷蔵庫・テレビが、生活家電応急貸与事業の補助対象となりました。

真下紀子議員は27日の本会議で、「世帯の状況や家族数に合わせてきめ細かく、災害救助法の適用を求めていくことが北海道の役割ではないか」とたどりました。

調査や要請に奮闘した道議団は「個人補償拡大に道を開いた」と、被災3町の議員が要望実現に尽力したことをたたえ、「被災農業施設への復旧支援に道が上乗せ措置を行ったが、費用600万円以上、かつ農業収入の3割以上の大規模被害に限定されている」



写真右9月8日
道議団の現地調査
佐野道議（左）

写真下9月11日
道議団の緊急要請
佐野道議（右）



と指摘し、従来の枠組みにと
らわれない支援拡充を求めて
行くと表明しました。

子ども医療費助成

道独自の助成拡大を

子ども医療費は、国の制度が
遅れているため各自自治体が独自
に助成を拡大しています。

菊地葉子議員は14日、道議

会決算特別委
員会で、高橋
はるみ知事に
子ども医療費
助成に、道独
自の助成を拡
大するよう迫
りました。

山形県は小
学生、秋田県
は中学生の通
院を医療助成
の対象として
いますが、北
海道は小学校

就学前までが対象で、かつ3
歳以上を1割負担とするな
ど、都道府県中最も遅れた水
準となっています。

菊地道議は「子どもの医療
費無料化は活力ある社会を築
くための未来への投資」と決
断した群馬県の例を示し、「ど
こに住んでも等しく医療が受
けられるようにと署名が広が
っている」ことを紹介し、北海
道でも助成拡大を強くもと
めました。

高橋知事は、「公平な社会保
障制度を確立する」「国が全国
一律の助成措置を制度化すべ
き」と、道独自の助成拡大に背
を向けました。

菊地道議は、道の調査結果
で2割もあつた「お金がなく
て子どもに必要な医療を受け
させられなかった」との回答
をゼロにすべきと指摘し、「子
ども医療費無料化へ一歩でも
前に進める決断をするべき」
と重ねて迫りました。

カジノ誘致断念を

食と観光対策特別委

有識者懇談会の報告

真下紀子議員は11月7日の委員会で、第3回有識者懇談会の報告が、候補地と依存症について不十分さを指摘していると告発し、カジノ誘致断念と対策強化を求めました。道観光局が会議録について「規定では概要版の作成にとどまる」としたため、真下道議は「会議録を作成しないのは、道民に正確に知らせたいと考える懇談会構成員に失礼にあたる」と批判しました。道観光局は「構成員の意見も聞き、議事録を作成する方向にしたい」と答えました。

1万人の反対署名を

重く受け止めよ

真下紀子議員は11月26日の委員会で、有識者懇談会が

苦小牧を優先候補地としたのは、誘致手順を前に進めたいと批判しました。

真下道議は、懇談会の依存症専門家が、「実態が把握されていないので、評価も対策もできない」指摘していると、実態調査の実施を迫りました。道の観光局誘

客担当局長は「依存症の実態を的確に把握できる手法を検討し、調査にむけて取り組みを進める」と答弁しました。

真下道議は、「知事は、1万人を超える署名に託した苦小牧市民の反対の声を重く受け止めると答えた」と指摘し、しっかりと対応を求めました。

苦小牧の反対集会

IR実施法が強行採決されて

4か月、現地苦小牧では連続して誘致反対の講演会が開催されました。11月18日には「カジノ誘致に反対する苦小牧市民の会」が、12月2日には「依存症を考える市民の会」が、講演会を実施しました。

佐野弘美議員は両集会に参



発言する佐野道議 =18日

加して、道議会におけるカジノ審議を報告しました。自公政権に忠実に従い、カジノに前のめりな高橋はるみ知事と、「インバウンド観光を一段高いステージに押し上げ

る機会を失いかねない。早急の対策を」と知事の背を押す地元与党議員を批判しました。地元の反対運動と、各議会での論戦で誘致を阻止しようと呼びかけ、運動の先頭にたつ決意を述べました。

停電対応信号機

警察庁は、東日本大震災以降、主要幹線道路の停電対応信号機の整備をすすめましたが、道内の整備率は低く、全国の3分の1の1.5%に過ぎません。ブラックアウト時の信号機障害で、道内で負傷者を伴う交通事故が51件発生しました。11月8日の決算特別委員会で、菊地葉子議員は「あまりにも低い」と増設を求めました。

道警は、「今年度中に函館市・旭川市・苦小牧市・小樽市などに34機新設する」と答えました。



懇談する佐野道議（右二人目） 5日

消費税増税は困る

12月5日、佐野弘美議員は、北区地区委員会の長屋いずみさん・小室正範さんともに、北区の24条周辺の商店街を訪問し、消費税増税問題について懇談しました。

佐野道議が「大もうけしている大企業や資産家に、応分の負担を求めれば10%に増税しなくても済む」と共産党の政策を訴えると、飲食店店主は「ゴーンさんか

ら税金をいただいて」と応じました。

薬局の店主は「仕入れには消費税が掛かるのに、処方箋で薬を売る時は消費税を掛けられません。10%は痛手」と、青果店の女将は、「今度はカードがどうしたこうしたとややこしい」と口々に不満や怒り訴えました。多くの方々に、増税反対の署名をしていただきました。

押しボタン信号機設置

ケーズ電気前の琴似栄町通り(北36西10)は、横断したい人が多いのに、信号のある交差点までは距離があるため、近くの住民が横断歩道設置を求めています。

8月の道交渉で、北区地区委員会の長屋いずみさん・小室正範さんと佐野弘美議員が強くもとめ、11月の北区長交渉でも、再度訴えた住民要求でした。

11月20日、道警から共産党北海道委員会に「押しボタン式信号機の設置を検討する」と回答があり、早速、近所にお知らせしました。

「長年の要求が実現することに感謝します。一日も早い設置を望んでいます」との声が寄せられました。

さのっちのホット一息

アイヌ ネノアン アイヌ～人である人として～

先日、アイヌの遺骨問題についての市民学習会に参加しました。

明治から昭和にかけて、サハリンや北方領土も含む全道各地から、盗掘されるなどしたアイヌの遺骨1676体と、一人一人が識別できない382箱が、今も全国の12大学に研究品として留め置かれている問題や、小川隆吉さん達が北大を提訴、和解が成立して一部が返還、再埋葬された経緯などについて、紹介されました。児玉作左衛門や小金井良精などの研究者が第一人者としてもてはやされ、視察に来た昭和天皇との写真や、大量の頭蓋骨を並べた研究室で誇らしげな様子の写真が、非常にグロテスクでした。

返還されない多くの遺骨を、白老の民族共生象徴空間に合祀する計画ですが、許されないことです。アイヌの人々にとっての宗教的な願いは、死後「コタンの土に還る」ことがであり、縁もゆかりもない土地で、コンクリートの施設に入れられることではありません。

もし、自分の先祖の墓が無断で暴かれ、遺骨も持ち去られたままだとしたら…アイヌ ネノアン アイヌ(人である人として)、どう考えるかが問われています。